



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	桂枝加黄耆湯が奏功した小児アトピー性皮膚炎6例
Author(s)	桜井, みち代; 石川, 由香子; 本間, 行彦 他
Citation	漢方の臨床, 54(3), 417-424
Issue Date	2007
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44241
Type	journal article
File Information	54-3.pdf



桂枝加黄耆湯が奏効した小児アトピー性皮膚炎6例

北大前クリニック

○桜井みち代・石川由香子・本間行彦
大塚吉則・八重樫 稔

はじめに

アトピー性皮膚炎の漢方治療において、小児と成人では
類用処方¹⁾が異なる。成人では清熱剤や利水剤が主体となる
ことが多いが、小児例では虚弱²⁾体質³⁾が基盤にあるため、小
建中湯や黄耆建中湯を使用することが多い。汗が多い場合
は桂枝加黄耆湯を使用する。最近経験した桂枝加黄耆湯の
小児使用例について報告する。

症 例

症例 1 10歳 男子

初 診…平成17年9月26日

生後まもなく発症。始めは顔面や手足に軽度湿疹がみ
れる程度であった。皮膚科でステロイドの外用剤を処方さ
れ、2歳までにはきれいに治った。7歳の冬に額から始ま
り、全身に皮疹がひろがった。ステロイド軟膏を塗って
いるが、だんだん効かなくなったため、来院した。

既往歴…喘息なし。鼻炎なし。

家族歴…父・花粉症と湿疹。母・喘息と湿疹。母方の祖母・
アレルギー性結膜炎

現 症…138 cm、32 kg。IgE 28358、ダニ+6、卵白+
6、ミルク+6、大豆+3、WBC 11500、好酸球15
2%。

腹部は腹力2/5、胸脇苦満、腹直筋緊張あり。くすく
すたがる。胃内停水あり。舌先紅。白苔。

全身の皮膚は赤黒く、浸出液がでて、肌はじとじとして

いた。落屑も著明で、はっと息をのむほどひどい状態であった。しかし、本人ははつきり受け答えできる、しつかりした子であった。ステロイドをぬっているのにこの状態であるので、ステロイドの使用はせず、ワセリンと亜鉛華軟膏を混合した外用剤を処方した。内服は猪苓湯25g + 消風散2.5g、分2を処方した。

3週間後、浸出液はとまり、赤みがやや減少した。しかし、痒みは強く、眠れない。常にぼりぼりかいている。耳介に浮腫がみられる。

猪苓湯25g + 桂枝加黄耆湯4g + 排膿散及湯5g、分2に変方した。外用剤にはモクタール：サトウザルベ：プラステベースを1…1…2の割合で混合したモクタール軟膏を使用した。

2ヶ月後、まだ全身に紅斑がみられるが、かなり赤みは減少し、うすくなってきた。落屑や苔癬化、丘疹がほとんどみられなくなり、皮膚表面がなめらかになってきた。しかし、暑がりて寝汗が多いという。桂枝加黄耆湯4g + 排膿散及湯5g、分2を処方。以後同じ漢方薬の処方が続ける。外用はモクタール軟膏を続けた。

3ヶ月後、顔面の紅斑がかなりうすくなったが、額や肩、肘など部分的に皮疹がのこっている。かゆみもあまりなく、落ち着いている。腹力3/5となる。

5ヶ月後、額に軽度紅斑がみられる。首、肘窩、膝窩になお軽度苔癬化あり。軀幹には丘疹が少し散在性にみられる。しかし、かなり改善した。

9ヶ月後、首、肘、膝の苔癬化がとれ、少しかさついている程度となる。軀幹には丘疹がほんの少しみられる。額はよくみると、うすく赤く、かさついているが、一見したところアトピー性皮膚炎患者とは分らない程度となった。寝汗もかかなくなった。

以後外用剤は不要となり、同じ漢方薬を継続中である。

(写真1)

症例2 6歳 女子

初診…平成17年7月27日

生後すぐに頬に紅斑が生じ、まもなく肘、膝、背中にひろがった。小児科や皮膚科でステロイド治療をずっとうけているが良くならないため、来院した。

既往歴…喘息2歳10ヶ月から。鼻炎あり。

家族歴…特になし。

現症…112・5cm、20kg、 Hb 1000、ハウスダスト + 3、卵白 + 2、大豆 + 0、ミルク + 2、犬皮膚 + 5、猫皮膚 + 3。全身に紅斑あり、皮膚の乾燥が目立つ。かゆみは強い。口渇あり。体を熱がる。イライラしている。腹力3

写真 1 (症例 1)



初診時

5ヶ月後

5。

柴胡清肝湯 2.5 g + 桂枝加黄耆湯 2 g、分3を処方。ザジ
 テンドライシロップ 1.2 gも併用した。外用は上記のモクタ
 ール軟膏やプロペトを使用した。

10日後、赤みはやや減少した。夜中かゆいと泣いたりし
 なくなつた。顔はまだ赤い。同じ処方。

1ヶ月後、紅斑増強し、かゆみひどくなり、夜中もバリ
 バリかいている。これは来院直前まで使用していたステロ
 イドを中止したためのリバウンドのためと思われる。六味
 丸 2.5 g + 黄連解毒湯 2.5 g、分2に変方した。

6週間後、皮膚びらん多く、お風呂に入るとき、痛みの
 ため泣き叫ぶというので、入浴前に体にオリーブ油をぬつ
 てもらうことにした。

2ヶ月後、痂皮がとれてきた。十全大補湯 2.5 g + 黄連解
 毒湯 2.5 g、分3に変方した。

3ヶ月後、全身皮膚真つ赤で、びらん多い。下肢はびら
 ん、痂皮多い。落屑著明でバリバリの皮膚の状態である。冷
 水を好む。かゆがるし、泣き叫ぶので、みているとつらい、
 と親がなげく。

治頭瘡 一方 2.5 g + 桔梗石膏 2 g、分3に変方した。

4ヶ月後、顔まだ真つ赤だが、皮膚のびらんは肘と膝の
 みになってきた。寝汗主に下半身にかく。

消風散2.5g + 桂枝加黄耆湯2g、分3。

5ヶ月後、非常によくなくなってきて、顔の紅斑がとれてきた。同じ処方継続。ただし、ザジテンは不要となる。

6ヶ月後、かゆみが減少し、落ち着いてきた。全身の紅斑もかなりうすくなり、かさぶたやびらんはなくなった。乾燥が目立つ。

桂枝加黄耆湯2g + 排膿散及湯2.5g、分2に変方。外用剤をアズノール軟膏に変更した。

その後同じ処方を継続しているが、外用剤の使用量が減り、漸次改善してきている。

症例3 8歳 女子

初診…平成17年8月3日

既往歴…喘息4歳から。テオドールをのんでいる。

家族歴…父・花粉症

現症…110cm、17kg、IgE 7000、ダニ+3。

2歳の時発症。ずっと定期的に皮膚科にかかり、ステロイド治療をうけていたが、よくならないため、来院する2ヶ月前にステロイドを中止したという。腹力2/5。風邪をひきやすい。扁桃肥大はない。中耳炎2歳の時、一度かかったことあり。

初診時…全身皮膚に紅斑や丘疹、落屑著明で、ガサガサの

皮膚をしている。下肢にはびらん面が多い。かゆみが強く、機嫌が悪い。

桂枝加黄耆湯1g + 排膿散及湯1.25g + 小青竜湯1.5g、分3を処方した。外用剤はグリパスCとサトウザルベを1・3の割合で混合した軟膏を使用した。

2ヶ月後、1週間前風邪をひいて、熱がでた。その時から皮疹悪化し、発赤増悪し、がさがさになったため、学校にもいけなくなった。かゆみはひどく、眠れない。寒気あり。

桂枝加黄耆湯2g + 麻黄湯2.5gに変方。ザジテンドライシロップ1g、分2を併用した。

3ヶ月後、寒気がへり、皮疹も著しく改善してきた。同じ処方。

7ヶ月後、落屑減り、紅斑もかなりうすくなった。あまりかゆがらなくなった。夏はさむがついていたのに、最近寒がらなくなった。大分眠れるようになった。漢方のみ処方。ザジテンは不要となる。外用剤の使用が著明に減ってきた。同じ処方。

9ヶ月後、全体的にまだ少し紅斑みられるが、皮膚表面は滑らかになってきた。鼻閉あり。咳も少しでる。同じ桂枝加黄耆湯と麻黄湯の処方を続けたが、11ヶ月後から来院していない。(写真2)

写真 2 (症例 3)



初診時

9ヶ月後

症例 4 3歳 男子 (症例 3の弟)

初診…平成17年8月3日

生後6ヶ月より発症。皮膚科にかかっていたが、良くならないため来院した。

現症…91cm、13kg。腹部は2/5、汗はかかない方。

初診時…全身赤く、乾燥し、かゆがるが、症例2の姉よりは軽症である。

桂枝加黄耆湯1g+排膿散及湯1g+六味丸1g、分3。ザジテンドライシロップ0.8g、分2。

外用剤はモクタル軟膏や、グリパスC…サトウザルベを1…3に混合したものを使用した。

3ヶ月後、かきむしらなくなった。同じ処方。

5ヶ月後、躯幹は少しかさついているが、ほぼ正常の皮膚となった。外用剤も不必要になった。

症例 5 9歳 女子

4、5歳から発症し、ずっとステロイド軟膏を躯幹、顔面にも朝夕ぬっていた。全身に皮疹ひろがり、治らないため、2年前よりステロイドは使わず、漢方治療をうけ、かなり改善したが、まだ顔面や躯幹や四肢の一部に皮疹が残っている。

初診…17年2月12日

現 症…123 cm、25 kg。

顔面にがさがさとした紅斑がみられる。上背部にも同様の紅斑あり、かゆがる。

桂枝加黄耆湯 4 g + 六味丸 5 g、分2。

1ヶ月後、がさがさはとれた。桂枝加黄耆湯 4 g + 排膿散及湯 5 g に変方。

2ヶ月後、顔はきれいになった。軀幹はまだ少し赤黒く、がさがさで、寒がる。

桂枝加黄耆湯 2 g + 排膿散及湯 2.5 g + 六味丸 2.5 g、分3。

これにより、少しずつ体の赤黒さがとれて、1年後には皮膚が滑らかになり、平成18年6月14日終診とした。(写真3)

症例 6 14歳 女子

初 診…17年9月21日

小学2年生より発症。肘や膝、首などに湿疹がみられ、ずっと皮膚科にかかって、ステロイド治療をうけていた。始めは年に2、3回かかる程度であったが、徐々に悪化し、今は2ヶ月に1回皮膚科にかかっている。半年前より顔面に紅斑がでるようになり、治らないため、来院した。

現 症…153 cm、46 kg。腹力は良い。胸脇苦満あり。Ige 131

写 真 3 (症 例 5)



初 診 時



1 年 後

柴胡桂枝湯 5 g + 黄連解毒湯 5 g、分2。

これで一時よくなったが、2週間ほどするとステロイドをやめたりパウンドのため、顔面真っ赤になり、腫れている。

猪苓湯 5 g + 三物黄芩湯 5 g、分2に変方したところ、徐々に紅斑と浮腫がとれてきた。

3ヶ月後、時々下痢をするようになり、口唇が荒れているため、桂枝加黄耆湯 4 g + 排膿散及湯 5 g、分2に変方した。

これで下痢はしなくなつた。顔面紅斑も次第にうすくなつてきたが、まだ少し赤く、かさかさしている。

4ヶ月後、桂枝加黄耆湯 4 g + 排膿散及湯 5 g + 六味丸 2.5 g、分2にしたところ、その2週間後には顔面の紅斑がほとんどとれてきた。

以後同じ処方をつけ、7ヶ月後終診。

考 察

桂枝加黄耆湯は桂枝湯に黄耆を3 g 加えた処方である。⁽⁴⁾『金匱要略』の水気病篇に黄汗の病を主ると書かれている。大塚敬節の解説によれば、黄汗の病は下肢に湿があつて冷え、(中略)腰から上に必ず汗が出て、腰がだるいようにい

たみ、皮膚に異常感覚があつて、皮の下に何か物が入っているように感じ、ひどい時は食べられなくなり、体がいたみ、重く、胸苦しくて、じつと落ち着いておれない。それに小便の出が少ない。これを黄汗という。これは桂枝加黄耆湯の主治である、と書かれている。⁽⁵⁾このことより、治りにくい皮膚病で、最近では小児湿疹やアトピー性皮膚炎の第一選択薬剤として用いられる。⁽⁴⁾

桂枝加黄耆湯を使用したアトピー性皮膚炎の症例は山田光胤先生が、荊芥、連翹を加えて、しばしば発表しておられるが、⁽⁶⁾二宮文乃先生の著書にも数例記載されている。⁽⁷⁾大塚敬節は水疱を形成する幼児の皮膚炎に効く場合が多いとのべている。⁽⁸⁾

一般に汗をかくのを目安に使用するとされるが、症例1と2は寝汗がみられたが、その他の症例は汗はあまり多くはないが、皮膚がカサカサしていた。しかし、いずれの症例もやはり腹力がなく、胃腸が弱く、風邪をひきやすい傾向があつた。花輪壽彦は、桂枝加黄耆湯の使用目標は、皮膚に艶がなくカサカサしている場合とジクジクしている場合があるが、⁽⁹⁾どちらも皮膚が菲薄で弾力がない場合に用いると述べており、必ずしも湿潤性でなくても使用可能である。

桂枝加黄耆湯は小児ばかりでなく、成人でも用いるが、

その場合もやはり多汗、寝汗、風邪をひきやすい、下痢しやすい、腹力がなく皮膚が菲薄といった特徴を目安に使用している。ことに排膿散及湯を併用することが多い⁽¹⁰⁾。排膿散及湯は、黄連解毒湯のような強力な清熱剤が、もともと弱い脾胃を傷めるおそれがある場合に、緩和な清熱剤として使用する。この二者で効果が出ない時、皮膚が乾燥していれば、さらに六味丸を補うとよいと思う。

アトピー性皮膚炎を漢方治療する場合、ステロイドの使用を完全にやめると、直後からはげしい皮疹の悪化(いわゆるリバウンド)をきたす。しかし、数ヶ月ないし半年するとすこしずつ落ち着いてきて、漢方薬の効果が現れ始める。子どもの場合は成人に比べると、リバウンドの期間が短く、しかも治りも早い。ステロイドを使用しながら、漢方薬の効果で、少しずつステロイドの使用量を減らすという方法は、効果がなく、いつまでたつてもステロイドがやめられず、筆者は未だ成功していない。リバウンドがあまりにひどく、学校にもいけない、という状態になれば、一時ステロイドを漢方と併用することもあるが、数週ないし数ヶ月でステロイドを打ち切るようにしている。アトピー性皮膚炎にステロイドを漫然と使用していると、漢方治療の効果はないように思う。

文献

- (1) 平馬直樹:「中医臨床シリーズ」アトピー性皮膚炎の漢方治療」10頁、東洋学術出版社
- (2) 岡部俊一:「アトピー性皮膚炎の漢方治療」1頁、現代出版プランニング
- (3) 二宮文乃:「アトピー性皮膚炎の漢方診療マニユアル」18頁、現代出版プランニング
- (4) 石川友章:「入門漢方医学」95頁、日本東洋医学会編
- (5) 大塚敬節:「金匱要略の研究」414-415頁、たにぐち書店
- (6) 山田光胤:「竹庵治験」活、2004年4月号、5月号、6月号
- (7) 二宮文乃:「アトピー性皮膚炎の漢方診療マニユアル」54頁、70頁、84頁、88頁、現代出版プランニング
- (8) 大塚敬節:「症候による漢方治療の実際」583頁、南山堂
- (9) 花輪壽彦:「漢方診療のレッスン」198頁、金原出版
- (10) 桜井みち代、本間行彦、ほか:「アトピー性皮膚炎(重症成人型)の漢方治療」漢方の臨床、52巻10号1567頁、2005年

(医師) 〒060 0814 札幌市北区北14条西2丁目5メルバN142F)